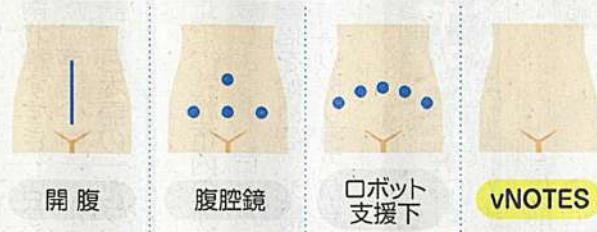


婦人科 傷が残らない新手術

経腔的内視鏡手術「vNOTES」保険適用に

各種婦人科手術の傷痕のイメージ



西村真唯医師

おなかに全く傷が付かない婦人科手術の器質が新たに保険適用された。婦人科では体に負担の少ない腹腔鏡手術やロボット支援下手術が主流だが、小さいながらも複数箇所に傷が残る。新たな手術法は婦人科の良性疾患のほとんどをカバーでき、従来の手術と比べ痛みも少ない。

vNOTES（ブイノーツ）=経腔的内視鏡手術」と呼ばれるもので、腹腔鏡手術の一種だ。2020年に手術器具が保険適用された。

婦人科腫瘍専門医・腹腔鏡技術認定医で、全国有数のvNOTES手術件数を誇る「札幌頸心会病院」（札幌市東区）婦人科・vNOTESセンター兼「頸心会さっぽろ北口クリニック」（札幌市北区）婦人科の西村真唯医師

vNOTESは脛を切開し、カメラ1台、鉗子2本を入れて手術を行う。これにより手術後、外から見える傷ができる。

西村医師は「当院は開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援下手術も行うが、vNOTESが第1選択。美容面で優れているほか、従来の腹腔鏡手術と比べ、術後の痛みも少ない」と指摘す

る。対象は卵巣腫瘍（卵巣腫瘍のみ、または卵巣・卵管）と切除するものの）、子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸部異形成に対するもの）、子宮筋腫、子宮腺

患のほぼすべての手術が可能だ。婦人科のがんや、子宮を残す子宮筋腫摘出術は一部の症例を除き適応外。

唯医師によると、従来の腹腔鏡

手術はおなかに5~6箇所の穴を4カ所前後開けるが、vNOTESは脛を切開し、カメラ1台、

鉗子2本を入れて手術を行う。

費用も従来の腹腔

鏡手術と変わらない。

vNOTES手術は一般に従

来の腹腔鏡手術より難しいた

め、実施していない医療機関も

ある。巨大な子宮筋腫の子宮全

摘術、子宮内膜症・チヨコレ

トのう胞などによる癒着などの

重症症例、脛からの出産経験が

ない、性交歴がない人を適応

外としているところもあるが、

札幌頸心会病院では対応するこ

とができる。

西村医師は「他院でvNOT

EESによる手術が難しいと言わ

れた方も当院では大半のケース

で手術が可能。ぜひ相談してほ

しい」と話す。

（編集委員 萩野貴生）

4種類の術式 特徴は

婦人科手術は、大別すると4種類ある。

開腹手術は下腹部を10cmほど切開するもので、古くから行われている。高度な医療機器を必要とせず、最小限の医師数で行える。半面、術後の痛みが強く、入院期間も長いなど患者の負担が大きい。腹腔式手術は脛（産道）の一部を3~5cm切開して行う。その起源は19世紀初頭にさかのぼるとされる。ただ、現在では脛に子宮が出てくる子宮脱の症例が大部分を占める。腹腔鏡手術も医療機器の進

歩で拡大している手法で、おなかに小さな穴を複数箇所（へその穴から行う单孔式もある）開け、医師は一次元モニターを見ながら鉗子を操作する。婦人科のロボット支援下手術は2018年に保険適用された。コンピューター制御の医療機器で、医師は三次元の映像を見ることができ、より繊細な手術が可能となつた。ただ、おなかに8cm程度の穴を4~5カ所開ける必要があり、傷痕が目立ちやすい面がある。（編集委員 萩野貴生）